

令和 5 年 6 月 27 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18H00614

研究課題名(和文) 日本新宗教史像の再構築：アーカイブと研究者ネットワーク整備による基盤形成

研究課題名(英文) Reconstructing the history of new religions in Japan

研究代表者

菊地 暁 (KIKUCHI, AKIRA)

京都大学・人文科学研究所・助教

研究者番号：80314277

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究プロジェクトは、曲がり角を迎えている新宗教史研究を、方法、資料、対象のあらゆる側面からの更新する試みであり、資料アーカイブ整備と国際的研究者ネットワーク形成を目標に掲げた。

資料アーカイブについては、大本教関連資料、「日本心霊学会」資料を整理し、より詳細な資料内容の分析に踏み込み、通時的な展開、各地の支部の活動状況、科学言説と宗教言説が合流する「心霊」概念をめぐる知識人層の関与、宗教運動と出版活動の関連など、「新宗教」をめぐる多様な論点の検証を推し進めた。研究者ネットワークについては、コロナ禍により海外学会参加ができなかったため、オンライン会議等で海外研究者との意見交換を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本プロジェクトは、大本教、日本心霊学会などの資料アーカイブ構築に基づいた実証的資料研究によって、新宗教が展開する社会状況の具体像を提出した。近代社会における科学技術の発展は、宗教と科学の弁別を要請し、宗教者はその要請のなかで宗教固有の活動領域を切り開いていった、そして、出版をはじめとしたメディアの発展は、その活動を拡大させる主要な手段となった。

研究成果の概要(英文)：This research project is an attempt to update the study of the history of new religions, which has reached a turning point, from all aspects - methods, materials and subjects - with the goals of developing an archive of materials and forming an international network of researchers.

Regarding the archive of materials, we have organized materials related to the Omoto-kyo (大本教) and the Japanese Society for Psychic Studies (日本心霊学会), and have gone into more detailed analysis of the contents of the materials, promoting the examination of various issues surrounding the 'new religion', including the activities of local branches, the involvement of the intellectual class in the 'psychic' concept where scientific and religious discourses merge, and the relationship between religious movements and publishing activities. With regard to the researcher network, due to the Corona disaster, online meetings and other means were used to exchange views with overseas researchers.

研究分野：民俗学

キーワード：新宗教 大本教 日本心霊学会 科学 出版 心霊治療 宗教統制

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

新宗教史研究は曲がり角を迎えている。1970～80年代に急速な進展を見せた新宗教研究は、1990年、『新宗教事典』(井上順孝他編、弘文堂)の刊行を見るなど、多くの成果を積み重ねてきた。しかし、今日から振り返れば、未解明な論点は少なくない。宗教団体個々の枠を超えた、超宗派的動向、宗教の枠を超えた思想、文学、芸術、科学などとの関係性、国境の枠を超えた海外宗教との関係性……。いずれも今後の探求が待たれる問題群であり、新たなアプローチが待望される。そのことは翻って、従来の新宗教研究を支えてきた概念や理論の再検討を要請することとなる。

### 2. 研究の目的

過去の新宗教史研究を乗り越えるには、方法、資料、対象の面からの更新が必要である。

本研究プロジェクトは理論面においては、「新宗教」概念の学説史的考察、海外での新宗教研究との意見交換、資料面においては、「通説」再検討の基礎となるべき教団機関誌や同時代メディアの発掘と整理とアーカイブ化、対象面としては、宗教概念の枠の外におかれた精神療法・霊術や修養などの研究と、同時代の海外の宗教的あるいは霊的な思想や技法などの影響についての調査を行う。

このような具体的課題に対し、宗教史に限定されず、思想史、文化史、社会史的なアプローチを試み、国内外に研究ネットワークを広め、日本の新宗教研究の優れた過去の遺産を現代に更新させるための基盤構築を目指す。

### 3. 研究の方法

本科研は、次の4つのサブプロジェクトから研究を進め、研究代表者が全体を統括する。

#### 【アーカイブ構築サブプロジェクト】

先行する科研プロジェクト取り組んでいた大本教関連の一次資料整理を継続する。さらに、佼成図書館に所蔵されている新宗教雑誌の目次整備を行う。

#### 【学説史研究サブプロジェクト】

戦前から戦後にかけての学術的な類似宗教=新宗教論を網羅的に調査分析する。具体的には特に宗教専門紙『中外日報』を主な対象として「新宗教」観の変遷をたどる。

#### 【事例研究サブプロジェクト】

新宗教は、神道系では大本教、仏教系では日蓮宗系の団体が圧倒的に多い。しかし、神道、仏教、あるいはキリスト教という区別は絶対的なものではなく、新宗教運動ではつねにアマルガムの状態であり、さらには境界的運動と大きく関わっている。その一方で、その多様性の中で、「国家」「天」というテーマは広く見られるものである。本プロジェクトでは、その流動的な影響関係と同時に、国家論、天皇論という視角から、新宗教運動を比較することを目標としており、そのための個別事例研究を推進する。

#### 【国際化推進サブプロジェクト】

欧米での新宗教研究は、1960～70年代の東洋宗教の流行が契機となっているが、現在はさらにスピリチュアルやペーガニズムのような宗教文化的流行と、その背景にある秘教思想への研究が進んでいる。日本の厚みのある新宗教研究の成果と海外の最新の研究について、相互に意見を交換するためのワークスペースが必要である。そのために、研究期間中に国際シンポジウムと国際学会でのパネル発表を計画しているが、その準備作業としての研究会(国内)を開催する。

### 4. 研究成果

本研究プロジェクトは、コロナ禍に加えて、分担者の吉永進一氏が逝去するという異常事態に遭遇し、研究計画を延長することを余儀なくされたが、当初の計画通り、資料整理、分析、論文執筆などを通じ、新宗教史研究についての学説史的、方法論的な再検討を実施した。

その成果を代表するものは、『「日本心霊学会」研究：心霊団体から学術出版への道』(栗田英彦編、人文書院、2022年)の刊行に至った。同書は、2022年で100周年を迎える学術出版社「人文書院」とその前身である「日本心霊学会」について、近年発見された機関紙『日本心霊』(1915～1941)の保存処理、デジタル化、整理分析を行い、その知見に基づいて、宗教学(栗田英彦、平野直子、吉永進一)、文学(一柳廣孝、石原茅代)、民俗学(菊地暁、渡勇也)、出版史(神保

町のオタ)などの分野から多角的に検討を加えた成果をまとめたものである。

前近代の宗教者が実践していた加持祈祷などの呪術的治療行為が近代化によって統制されるなかで、「科学的」な心身の理解に立脚した「心霊術」は、呪術として統制されることもなく、また、「科学的」であるゆえに各宗派の教義ともバッティングせず、地方の寺院や宗教者に一定のニーズがあり、そのようなニーズを出版を通じてゆるやかにネットワーク化していったのが「日本心霊学会」だったといえる。戦前期の社会状況のなかで「修養」の心霊団体から「教養」の学術出版へと変貌するプロセスを具体的にトレースすることができたと自負している。

これに関連するワークショップ等も随時開催し、研究成果の発信に努めた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 HOSHINO Seiji
2. 発表標題 "Nakanishi Ushiro: His Biography and the History of Religions" in the panel "Reconsidering the Role of Biography in the Study of Modern Japanese Buddhism"
3. 学会等名 the 78th Annual Conference of the Japanese Association for Religious Studies (JARS), held at Teikyo University of Science (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計10件

1. 著者名 島園 進、末木 文美士、大谷 栄一、西村 明	4. 発行年 2020年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 288
3. 書名 近代日本宗教史 第三巻 教養と生命	

1. 著者名 永岡 崇	4. 発行年 2020年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 352
3. 書名 宗教文化は誰のものか	

1. 著者名 大谷 栄一、菊地 暁、永岡 崇	4. 発行年 2018年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 450
3. 書名 日本宗教史のキーワード	

1. 著者名 栗田英彦、塚田穂高、吉永進一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 国書刊行会	5. 総ページ数 420
3. 書名 近現代日本の民間精神療法	

1. 著者名 大谷 栄一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ペリかん社	5. 総ページ数 352
3. 書名 近代仏教というメディア	

1. 著者名 吉永 進一、碧海 寿広	4. 発行年 2021年
2. 出版社 法蔵館	5. 総ページ数 378
3. 書名 神智学と仏教	

1. 著者名 菊地 暁	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 252
3. 書名 民俗学入門	

1. 著者名 栗田 英彦、石原 深予、一柳 廣孝、菊地 暁、神保町のオタ、平野 直子、吉永 進一、渡 勇輝	4. 発行年 2022年
2. 出版社 人文書院	5. 総ページ数 240
3. 書名 「日本心霊学会」研究	

1. 著者名 永岡崇・日沖直子編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 駒澤大学総合教育研究部文化学部永岡研究室	5. 総ページ数 300
3. 書名 第二次大本事件獄中書簡資料集	

1. 著者名 大谷栄一・戸田教敬編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 戦後日本の宗教者平和運動のトランスナショナル・ヒストリー研究プロジェクト	5. 総ページ数 174
3. 書名 中濃教篤資料目録	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	岡田 正彦  (Okada Masahiko)  (00309519)	天理大学・人間学部・教授   (34602)	
研究分担者	栗田 英彦  (Kurita Hidehiko)  (10712028)	南山大学・南山宗教文化研究所・研究員   (33917)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	永岡 崇 (Nagaoka Takashi)  (30725297)	駒澤大学・総合教育研究部・講師  (32617)	
研究分担者	赤江 達也 (Akae Tatsuya)  (30823819)	関西学院大学・社会学部・教授  (34504)	
研究分担者	星野 靖二 (Hoshino Seiji)  (50453551)	國學院大學・研究開発推進機構・准教授  (32614)	
研究分担者	大谷 栄一 (Otani Eiichi)  (70385962)	佛教大学・社会学部・教授  (34314)	
研究分担者	吉永 進一 (Yoshinaga Shin'ichi)  (90271600)	龍谷大学・公私立大学の部局等・研究員  (34316)	
研究分担者	一柳 廣孝 (Ichianagi Hirotaka)  (40247739)	横浜国立大学・教育学部・教授  (12701)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------